

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 5年 2月 17日

事業所名 児童発達支援事業所 かめさんち

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・状況に応じて部屋を分けて活動したり、屋外に出て活動したりしている	・利用人数と活動に応じては狭いと感じる事もある。
	2	職員の配置数は適切である	○		・ねらいに応じていつもより配置を少なめにしたり手厚く対応したりしている	・活動の内容や利用の応じて勤務調整を行い、適切な配置を行っていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・視覚的手掛かりとなるスケジュール等を準備したり環境に気が散ってしまうことがないように設置を工夫している ・部屋でオムツ替えが必要な子は仕切りを使い配慮している	・トイレの場所が活動部屋から遠いので様子に応じて早めに対処していく。 ・以前よりわかりやすくなってはいるが改善が必要な所もある（視覚的構造化など）ので検証したうえで物的環境を改善していく。 ・動線の確保が難しかったり、更衣の際プライバシーの保護の空間が確保しづらかったりするので、対応策を検討し対応していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・活動内容によって部屋を使い分けている。 ・活動しやすいように場所を工夫している。 ・消毒するものと場所とで布巾を代えている	・定期的にクーラーのフィルター等の細やかな場所の掃除や消毒や換気には継続して努めていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・担当スタッフが中心に努めている。 ・ミーティングの際に個人の目標と現時点での振り返りは実施できていると思われる。	・振り返りの時間が長くなってしまっている。時計を見たり終了時間を明確にしてから始められるようにしていく ・振り返りの内容を深め今後の課題や次回へのアプローチに生かしている
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・保護者の意向について職員間で話し合い、内容に応じて対応している。	・今後も保護者の意向を把握し、業務改善に努めていく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・会議で検討し、ホームページで公開している。	・今後もホームページで公開を継続していく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	・こども園や他事業所などのスタッフを受け入れている。	・外部評価の機会を見出していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・研修を受けた人が全体にも伝える機会を設けている。	・ミーティングの際に伝達しているがタイムリーではない。 ・研修の内容については事業所内での課題やニーズに応じて確保するように努める。

適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○	・誕生月、モニタリング月に全員と面談を行っている。 ・面談を実施した後、計画作成を行っている。	・計画作成におけるアセスメントの時期については早めの準備を心掛けていく。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○	・モニタリング用紙、太田ステージをとっている。	・アセスメントの質を上げていく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○	・子ども一人一人に応じた支援内容を選択して作成し、支援内容に対して適切に選択されているかを確認するようにしている。	・適切な時期に支援計画を立てていけるように事務作業時間の確保に努める。 ・支援する方向性がはっきりするように具体的な支援内容になるように努める。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○	・子どもに合わせた課題、ねらいがどこにあるのか打合せ時に確認しながら進めている。	・普段の活動でも児童支援計画を意識して関わっていく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○	・勤務日に合わせて活動内容、リーダー決めを行っている。	・スタッフ間の意見を組み合わせながら立案するように努める。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○	・活動内容が重なってしまわないように調整しながら行っている。	・利用日の子どもの目標に合わせて、プログラムを作っていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○	・個別活動にて、個々に応じて計画実践できるようにし、集団活動では全体及び一人一人のねらいを持って活動できるように作成している。	・個別活動の取り組みも一人一人の課題に合わせて計画していく。 ・個別と集団活動の組み合わせの意識を高めて計画を作成するように努める。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○	・活動の合間をみて打合せを行っている。	・全員では難しい。子ども達1人1人に対してのねらいをもっと具体的に共有してから活動に取り組む。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	・活動前に計画表に沿って打合せをし、活動後携わったスタッフで振り返りをしている。	・振り返りでは、その日の様子の振り返りや反省が多い為、次につながる支援の検討を増やしていく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○	・忘れてしまわないよう、その日の記録はその日に完成させるよう心がけている。	・子どもに応じて必要項目の記録を心掛け、継続的な支援の検証・改善につながる内容となるように努める。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○	・6か月を目安にモニタリングを実施している。	・モニタリングの時期が計画よりも遅れていることがあるので、時期への意識を高めていく。
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	・児発管や担当者など、複数で参加できるときには複数参加している。	・子どもの状況に応じて、担当者会議が開催していけるよう関係機関への働きかけに努めていく。
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○	・保健センターやこども園等と連絡をとったり訪問したりして連携をしながら支援している。	・もう少し関係機関とのつながりを積極的に取っていったほうがいいと思う。 ・特定のスタッフが連携に携わっているため複数スタッフでの連携に努めていきたい。	

関係機関や保護者との連携	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	・保護者との面談にて入園の意向を把握し、保護者の同意のうえで情報共有できるようにしている。	・園を訪問し情報共有する機会が少ない、かつ、園に提案できるだけの知識不足を感じる。 ・情報共有出来ている園と出来ていない園がある。 ・就園に関しての移行支援については事前の連携が十分ではなかったため保護者との面談及び入園前の情報共有は行っていない。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	・移行支援シートを作成し就学先へ渡し、情報共有を行っている。	・特定のスタッフが対応している。相互理解をはかるための個人の知識も深めていかなければならないと感じる。 ・移行支援シートに記入後学校訪問することで内容の補足等に努めていく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	・必要に応じて連絡を入れて話している。	・他施設との連携を深めることで課題を見出していく。 ・助言や研修を受ける機会があれば受けたい。他事業所との連携も取ってきたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	・コロナで難しい状況である。	・コロナの状況によって交流の仕方を工夫しながら機会を設けていく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○	・担当の人が参加している。	・多くのスタッフが携わっていけるように参加していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	・振り返りやその日の様子によって、個別にお伝えするようにしている。	・共通理解に努めているが、保護者によって十分とは言い難いので配慮して理解が深まる機会を設ける。 ・振り返りに参加される保護者とは情報共有を行っているが参加されない保護者とは密な情報共有が出来ていないと感じる。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○	・保護者との話から家での関わり方など伝えられるようにしている。	・家庭で取り組める関わり方について振り返りの際など多くの保護者と話ができるように努める。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	・利用開始前に丁寧な説明を心がけて説明している。	・スタッフ内での把握が十分とは言い難いので共有する機会を設ける。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○	・内容についてわかりやすく補足を加えて説明している。	・計画の説明が遅くなっていることがあるので、事務業務の時間を確保し、計画を定期的に作成できるように努める。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	・保護者からの相談に対して、上司に相談し配慮するように心がけている。	・相談にすぐに対応できるような環境を整えていきます。

保護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・月1回茶話会を行っている。	・卒園児保護者との連携も深まっていくような内容を工夫していく。 ・振り返り時に保護者同士話しができるようにしていく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・相談事があればすぐに対応できることを周知し、申入れに応じている。	・相談内容については保護者からの話を聞いたうえで対応しつつ、ほかスタッフとも共有し、その後の対応にも努める。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・月に1度の月報を発行している。	・公式ラインアカウントでの配信も活用しながら必要な情報を伝えて情報の周知に努めていく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		・会議などで個人情報の取り扱いの確認をし意識を高めている。	・書類や情報の共有については限られた場所にて取り扱っていきように職員間で配慮していく。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・伝達時の様子に応じてスケジュールやイラストといった視覚的に伝わりやすいような工夫をしている。	・それぞれが気を付けているとは思いますが、言葉遣いや選択する言葉などもっと配慮できる部分はあると思う。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・コロナで難しい状況である。	・コロナの状況によって交流の仕方を工夫しながら機会を設けていく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		・それぞれのマニュアルを作成している。	・各マニュアルが現状に応じているかどうかについても定期的に見直ししながら訓練を行っていく。 ・マニュアルや訓練について保護者への伝達の方法や時期を検討して周知に努める。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・大雨、洪水時、火災時の避難訓練を行っている。	・訓練内容については利用者全員に伝わるように努めていく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		・年度初めに調査票を配布し、記入していただいている。	・聞き取りに際して必要な情報については記録にとり共有できるよう工夫していく。 ・書類を提出して下さっているが細かい状況まで確認できていない。確認不足であると感ずる。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・利用開始前にアレルギーの把握ができるように対応している。	・現在利用児に適応となる児がいらない為分からない。職員間で共有に努めていく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・ヒヤリ、事故報告書は発生したときにその都度作成し防止策を全体で話し合っている。	・事例については振り返り時に確認し、必要に応じて記録していく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・活動の振り返り時にスタッフ間で子どもへの対応の仕方を確認している。	・定期的に年3回虐待防止委員会を実施し、必要な内容な研修も実施していく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		・子どもに応じた対応を事前に話し合っている。	・利用契約時に予測される身体的な支援の対応の事例については保護者に説明し了解を得るように努めていく。